



*The world needs science, science needs women.
Because women in science have the power to change the world.*

2017 年度
第 12 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
募 集 要 項

日本ロレアル株式会社
([http:// www.nihon-loreal.jp/](http://www.nihon-loreal.jp/))

後援：日本ユネスコ国内委員会
(<http://www.mext.go.jp/unesco/>)

2017年度 第12回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」募集要項

1. 趣旨

ロレアルグループとユネスコが世界規模で展開する女性科学者を支援する共同プロジェクトの理念を継承し、将来を担う日本の若手女性研究者が 国内の教育・研究機関において 研究を継続できるよう、奨励しています。

2. 対象

生命科学、物質科学の分野において、博士後期課程に在籍あるいは、博士後期課程に進学予定の40歳未満*の女性を対象とします。

*下記、応募締切日現在、40歳未満で交付後1年間、国内で教育・研究に従事 できる方。留学生は対象外とさせていただきます。

3. 奨学金授与の件数

生命科学、物質科学の分野からそれぞれ原則1年2件(2名)、計4件(4名)を選考し、受賞者に賞状および、奨学金100万円を贈呈します。

4. 受付期間

2016年11月14日(月)から2017年2月28日(火)まで(締切日の消印は有効とします)

5. 応募方法

封筒に、「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」応募書類と必ず明記の上、下記必要書類を「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局 宛に郵送ください。

e-mailでの応募は受け付けておりません。応募書類は返却いたしませんのでご了承ください。

(1) 必要応募書類 *論文など複数枚の書類を綴じる場合は、ホチキス止めではなく クリップ をご使用ください

- 応募申請書 2部
募集要項、応募申請書、指導教員からの推薦状は、日本ロレアルホームページ <http://www.nihon-loreal.jp/>の 2017年度「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」募集開始 からダウンロードできます。
- 履歴書(身分証明書サイズの顔写真貼付) コピー可 2部
- 指導教員からの推薦状 2部
- これまでの研究内容の概要(A4版 2頁以内) 2部
*および別添(A4版 1頁以内)に、研究タイトルとアブストラクトを日英で併記ください(和文500字/英文200words)
- 今後一年間の研究題目とその概要および今後の展望(A4版 2頁以内) 2部
- 発表論文リスト(口頭発表含む) 著者名は可能なかぎり全員記載 2部
*応募者本人が First author ではない論文は、First author の役職名(発表当時)と、本人の寄与分(%)を明記ください
- 論文別刷(コピー可) 各2部
①既刊および刊行予定の論文(Acceptance Letter 添付) 3編以内 ②学会発表論文(アブストラクト)
*上記①、②に該当する書類がない場合、修士論文で代用可
- 官製はがき(返信先住所・宛名を必ず明記ください) 1枚

(2) 書類送付先

〒163-1071 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー
日本ロレアル株式会社 コーポレート・コミュニケーション本部
「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局 宛

(3) お問い合わせ先

fwis-japanfellowships@loreal.com

6. 選考

1次審査(書類選考)、2次審査(ヒアリング)を経て、2017年半ばまでに選考委員会により選考のうえ、採否をご連絡します。

7. 発表

2017年に東京で開催予定の授賞式にて発表させていただきます。

8. 「ロレアルーユネスコ女性科学賞—国際新人賞」

ロレアルグループ本社(パリ)とユネスコ(パリ)主催「ロレアルーユネスコ女性科学賞—国際新人賞」の2018年度の候補者として2017年度 日本奨励賞の受賞者から1名を選考委員会が選出します。各国から選出された候補者からトップ15名の若手女性科学者に賞金約200万円が贈呈されます。

**2017 年度 第 12 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
応募申請書**

(日付) 年 月 日

①研究分野 該当分野を○で囲むこと	生命科学	物質科学
②研究テーマ		
③氏名 (フリガナ)	◎	
④生年月日	(西暦) 年 月 日 (歳)	
⑤自宅連絡先	(住所) 〒 (電話) (携帯) (FAX) (e メールアドレス)	
⑥所属大学連絡先	(住所) 〒 (電話) (FAX) (e メールアドレス)	
⑦所属大学・学部・学科	(大学名) (学部名) (学科名)	
※⑧指導教員推薦状 (添付書式を使用のうえ、封印して郵送ください)		
⑨指導教員連絡先	(氏名) (役職名) (大学名) (学部名) (学科名) (住所) 〒 (電話) (FAX) (e メールアドレス)	
※⑩履歴書 (顔写真貼付) コピー可		
※⑪これまでの研究内容 (A4 2 頁以内 添付) および別添(A4 版 1 頁以内)に、研究タイトルとアブストラクトを日英で併記 (和文 500 字/英文 200 words)		
※⑫今後 1 年間の研究題目と概要および今後の展望 (A4 2 頁以内 添付)		
※⑬発表論文リスト (口頭発表含む)を添付 著者名は可能な限り全員記載 応募者本人が First author ではない論文は、First author の役職名(発表当時)と本人の寄与分(%)を明記		
※⑭下記論文別刷 (コピー可)を添付 ①既刊および刊行予定の論文(Acceptance Letter を添付) 3 編以内 ②学会発表論文(アブストラクト) 上記①、②に該当する書類がない場合、 <u>修士論文で代用可</u>		
⑮官製はがき (1 枚同封) 返信先住所・宛名を必ず明記ください。		

注 1) ※印の書類は、各 2 部ご用意ください。

注 2) 論文など複数枚の書類を綴じる場合は、ホチキス止めではなくクリップをご使用ください。

注 3) 官製はがきは、1 枚のみご用意のうえ、返信先住所・宛名を必ず明記ください。

**2017 年度 第 12 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
指導教員による推薦状**

(日付) 年 月 日

①指導教員連絡先	(氏名) (役職名) (大学名) (学部・学科名) (住所) 〒 (電話) (FAX) (e メールアドレス)
②応募者氏名 (フリガナ) (3 名まで)	
③推薦理由 (応募者の研究姿勢・研究の進捗状況、専門的知識・技量、着想力・創造力、将来性などについてご記入ください。また、研究の独創性・特色も明記してください。)	

- 注1) 一人の指導教員につき、ご推薦いただく学生は**3名まで**とする。
- 注2) 外部研究機関にて研究を行っている場合は、直接指導を受けている当該機関の教員からの推薦も可能です。
その場合は、学生証コピーまたは、所属大学・大学院の在籍証明書を添付してください。
- 注3) 本推薦状は、審査の重要な資料となるので、当該応募者についてできるだけ具体的かつ明確にご記入ください。
- 注4) 本推薦状は、本書以外に新たに用紙を加えることはできません。
- 注5) 本推薦状を封印のうえ、ご郵送ください。

応募者の方へのアンケートのご協力をお願い

今後の参考として、お手数ながら、下記アンケートへのご回答にご協力ください。

- 「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」を何でお知りになりましたか。
該当項目に○印をしてください。（複数回答 可）

○印欄	項目	学会・雑誌名など
	日本ロレアルのホームページ	
	知人からのご紹介	
	大学のホームページ	
	大学の事務からのご紹介	
	大学の先生からのご紹介	
	学会のホームページ	学会名
	学会誌	雑誌名
	新聞・雑誌	新聞・雑誌名
	その他	

- その他のご意見・ご要望

ありがとうございました。

「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局

日本奨励賞 歴代受賞者

2016年現在：計43名

年度・分野	氏名	授賞時所属
1	2006年 物質科学 受賞者	高峰 愛子 東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻
2	2006年 生命科学 受賞者	佐々木 真理 総合研究大学院大学 生命科学研究科 生理科学専攻
3		野中 美応 京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻
4	2007年 物質科学 受賞者	神谷 真子 東京大学大学院 薬学系研究科 分子薬学専攻 薬品代謝化学教室
5		作田 絵里 北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻 分析化学研究室
6		三浦 陽子 名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻(物理系) 物質開発物理研究室
7	2007年 生命科学 受賞者	黒田 有希子 東京大学大学院 医学系研究科 脳神経医学専攻 脳神経発生・分化卒 (授賞時) 理化学研究所 脳科学総合研究センター 発生神経生物研究チーム
8		戸張 靖子 千葉大学大学院 自然科学研究科 多様性科学専攻 関連物質先端科学講座 岡ノ谷研究室 卒 (授賞時) 日本医科大学大学院 医学研究科 生体制御形態科学部門
9	2008年 物質科学 受賞者	南谷 英美 大阪大学大学院 工学研究科 精密科学・応用物理学専攻
10		田中 奈津美 早稲田大学大学院 先進理工学研究科 化学・生命化学専攻 化学合成法研究室
11	2008年 生命科学 受賞者	覚道 奈津子 関西医科大学大学院 医学研究科 博士課程 高次機能制御系 形成外科学 専攻
12		大西 なおみ 北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻 (於 遺伝子病制御研究所 分子腫瘍分野)
13	2009年 物質科学 受賞者	海老根 真琴 東北大学大学院 理学研究科
14		大串 裕子 九州大学大学院 工学府 物質プロセス工学専攻
15	2009年 生命科学 受賞者	岩井 玲奈 東京大学大学院 医学系研究科 神経機能解明ユニット
16		富田 文菜 東京工業大学 フロンティア研究センター
17	2010年 物質科学 受賞者	中村 優希 東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻
18		富永 依里子 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 設計工学専攻
19	2010年 生命科学 受賞者	依田 真由子 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻
20		野澤 佳世 東京大学大学院 理学系研究科 生物化学専攻
21	2011年 物質科学 受賞者	植田 桐加 名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻(化学系) 伊丹研究室
22		竹原 由佳 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 物理科学コース 奥村研究室
23	2011年 生命科学 受賞者	水沼 未雅 東京大学大学院 薬学系研究科 薬品作用学教室
24		森田 真規子 広島大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 細胞生物学研究室
25	2012年 物質科学 受賞者	客野 遥 首都大学東京大学院 理工学研究科 物理学専攻
26		工藤 まゆみ お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 化学・生物化学領域
27	2012年 生命科学 受賞者	高田 朱弥 東京大学大学院 医学系研究科 内科学専攻(消化器内科)
28		中泉 敦子 大阪医科大学大学院 医学部 眼科学
29	2013年 物質科学 受賞者	小原 睦代 名古屋工業大学大学院 工学研究科 未来材料創成工学専攻
30		高山 あかり 東北大学大学院 理学研究科 物理学専攻
31	2013年 生命科学 受賞者	野殿 英恵 慶應義塾大学大学院 理工学研究科 基礎理工学専攻
32		松嶋 藻乃 北海道大学大学院 医学研究科 神経生理学分野
33	2014年 物質科学 受賞者	中住 友香 東京工業大学 理工学研究科 化学専攻 木口研究室
34		八木 亜樹子 名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻(化学系) 伊丹研究室
35	2014年 生命科学 受賞者	垣本 由布 京都大学大学院 医学研究科 法医学講座
36		田淵 紗和子 総合研究大学院大学 生命科学研究科 生理科学専攻 細胞生理研究部門
37	2015年 物質科学 受賞者	山本 久美子 東京大学大学院 薬学系研究科 薬科学専攻 金井求研究室
38		吉村 瑠子 京都大学大学院 理学研究科 化学専攻 ナノスピントロニクス研究室
39	2015年 生命科学 受賞者	林 真妃 名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 植物生理学研究室
40		向井 理紗 徳島文理大学大学院 工学研究科 ナノ物質工学専攻 大島研究室 卒 (授賞時) 徳島文理大学 香川薬学部
41	2016年 物質科学 受賞者	北村 未歩 東京大学大学院 工学系研究科 応用化学専攻 藤岡研究室 卒 (授賞時) 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
42		田仲 玲奈 東京大学大学院 農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 博士課程 製紙科学研究室 卒 (授賞時) 大阪大学大学院 理学研究科 高分子科学専攻 高分子物理化学研究室
43	2016年 生命科学 受賞者	丹治 裕美 東京大学大学院 薬学系研究科 蛋白構造生物学教室

(参考)

ロレアルグループとユネスコ — 世界規模で女性科学者を支援する社会貢献活動について

パリに本社を置くロレアルグループと国連専門機関のユネスコは、「世界は科学を必要とし、科学は女性を必要としている。女性科学者の力で世界を変える」という理念のもと、世界の女性科学者の業績を称えるとともに、同分野で活躍する女性たちの世界レベルでの更なる飛躍と地位向上を目的に、1998年に 共同で女性科学者を支援するプロジェクトを創設しました。

同プロジェクトには次の3つのカテゴリーがあり、プロジェクト1、2は、いずれも世界規模で展開しています。全プロジェクトを通じて、これまでに2,530名以上の女性科学者が表彰されました。

1. 「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」(本社主催): 日本人受賞者5名のほか、ノーベル受賞者も輩出

世界の科学の発展に寄与した女性科学者の業績を称えるものです。日本からは下記の5名が受賞(所属:授賞時)しています。

- ・ 2000年 岡崎恒子氏/名古屋大学名誉教授:分子生物学の草分け的存在で、DNAの不連続複製「岡崎フラグメント」の功績により表彰
- ・ 2005年 米沢富美子氏/慶応義塾大学名誉教授:アモルファス半導体および液体金属の先駆的理論とコンピューター・シミュレーションによる解明に貢献
- ・ 2009年 小林昭子氏/日本大学文理学部化学科教授、東京大学名誉教授:世界で初めて単一分子性金属の設計と合成に成功し、分子性伝導体の開発研究への多大な貢献
- ・ 2013年 黒田玲子氏/東京理科大学総合研究機構教授、東京大学名誉教授:分子構造の左右性の違いが自然界に広く現れる左右性(キラリティー)現象に重要であることを明らかにし、アルツハイマーなどの神経変性疾患研究などの応用研究に貢献
- ・ 2014年 稲葉カヨ氏/京都大学理事・副学長(男女共同参画・国際・広報担当)、京都大学男女共同参画推進センター長、京都大学大学院生命科学研究所教授: 正常時ならびに疾患時における免疫システム内の樹状細胞の主要な役割の解明に貢献

また、ロレアル-ユネスコ女性科学賞の2008年の米国受賞者であるエリザベス・ブラックバーンと、欧州受賞者であるアダ・ヨナットが、それぞれ2009年ノーベル医学・生理学賞およびノーベル化学賞を受賞するという快挙を遂げています。

2. 「ロレアル-ユネスコ女性科学賞-国際新人賞」(本社主催):

「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」をはじめ、世界50カ国で推進している国内賞から、生命科学、物理、化学、工学、数学の分野で世界的に評価されるトップ15名の若手女性科学者を表彰し、研究を支援しています。

- ・ 2014年 小澤末央氏/九州大学大学院医学研究院環境医学分野久山町研究室 学術研究員:食事で軽度認知機能障害(認知症の前段階)を予防できる2つの研究成果を評価
※国際新人賞の前身である「ロレアル-ユネスコ女性科学賞 国際奨励賞」を受賞
- ・ 2016年 向井理紗氏/徳島文理大学香川薬学部 博士研究員: ウイルス感染が原因となって発症する白血病の一つである成人T細胞白血病(ATL)の発症機構の解明に貢献

3. 「ロレアル-ユネスコ国内賞」(各国ごとに主催):

ロレアルグループでは、現在、日本の「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」をはじめ、各国において、同プロジェクトの理念を継承し、博士課程などの若手女性科学者が 自国内の研究・教育機関 で一年間研究を継続できるよう奨励し、助成しています。

なぜ、ロレアルグループとユネスコとの共同創設賞なのでしょう?

ロレアルグループは、1909年の創立当初から研究活動を最重要視し、化粧品科学を一つの独立した科学分野へと育て上げてきました。また、女性研究者を積極的に登用しており、4,000人の研究者のうち、女性が占める割合は70%に上ります。一方、ユネスコも女性の科学への参画を優先課題に掲げ、数多くのプログラムを推進しています。こうした共通の理念のもと、ロレアル-ユネスコの共同プロジェクトは創設されました。

【ロレアルグループについて】

ロレアルグループは、1909年にパリで化学者によって設立され、世界130カ国・地域で事業を展開し、82,880人の従業員を擁する世界最大の化粧品会社です。「ヘレナ ルビンスタイン」「ランコム」「シュウ ウェムラ」「キールズ」「イヴ・サンローラン」「ロレアル パリ」「メイベリン ニューヨーク」など32のブランドをグローバル規模で展開しています。世界中に23の研究開発拠点を置き、グローバルな研究開発ネットワークを有しています。

日本においては、1963年から事業を開始し、1996年に日本法人である**日本ロレアル株式会社**が設立されました。2,500人の従業員を有し、化粧品の輸入、製造、販売、マーケティングを行っています。現在、上記のブランドを含め22のブランドを取り扱っています。30年以上前から日本に研究開発拠点を置き、現在、日本ロレアル リサーチ&イノベーションセンター(川崎市・溝の口)として、日本をはじめ、アジアの研究開発を統括しています。220名以上の研究者を有し、うち女性研究者は58%を占めています。

【ユネスコについて】

1945年に設立されたユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、本部をパリに置き、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。2014年4月現在の加盟国数は195カ国あり、また世界53カ所に地域事務所を置いて活動を展開しています。

日本では「ユネスコ活動に関する法律」に基づき、文部科学省に置かれる特別の機関として**日本ユネスコ国内委員会**が設置されています。日本ユネスコ国内委員会は、教育、科学、文化等の各分野を代表する60名以内の委員で構成され、我が国におけるユネスコ活動の基本方針の策定、ユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査等を行っています。日本ユネスコ国内委員会事務局は文部科学省に置かれ、文部科学省国際統括官が日本ユネスコ国内委員会事務総長を務めています。